

紅緑偏「滑稽俳句集」を読み解く I

2009.06.01 (聞き手 高橋素子)

高橋 こんにちは・・・わっ！会長、その古い書物何ですか？紙魚が出て来そう！

まっ、まさか、その古書を題材にインタビューってことでは・・・？

会長 はっはっはっ！そうですよ。

明治34年に佐藤紅緑が出版したこれが「滑稽俳句集」です。

やっと手に入れた貴重な古書です。
まさに古書句蒼然（古色蒼然）ですが、インタビューって言うか、ご一緒に読破してしましましょうか！

高橋 これが107年前の「滑稽俳句集」・・・？
当時の滑稽句はどんなものなのかとても興味があります。

昨年10月に107年ぶりに出版された「平成の滑稽」と比較してみるのも面白そうですし・・・でも、ページめくる度に紙魚が飛び出しそうで・・・（笑い）

会長 大丈夫！

★紙魚と生(あ)れ大言海(だいげんかい)を泳ぎゐる（八木健作）です。

大言海ではありませんが、107年前の「滑稽俳句集」の中を紙魚になって泳いでみましょう！
それに、当時・・・滑稽俳句がどのような存在だったのかも・・・興味あるところですからね。

高橋 表紙には、鳴雪翁題 紅緑子偏・・・とありますよ。

会長 内藤鳴雪は子規より年上ですが、子規に俳句を学んだ。
紅緑も子規の門下・・・つまり同門ということですが、紅緑は鳴雪に敬意を払って、句集の名付け親になってもらったということでしょうね。

高橋 紅緑子編の方は？・・・紅緑に「子」がついてますよ。

会長 「子」は主として動作性の名詞につける接尾語で男子に用いるものです。
編集子・・・などといいますね。紅緑子の場合は、親愛の情を含めて謙虚に小さな存在であるという意味を表していますね。

高橋 あらあら・・・冒頭で随分時間をとってしまいました。先に進みますね。

会長 そうしましょう！
冒頭ばおっとおしてる場合じゃない（笑い）

書物のタイトルは「滑稽俳句集」明治三十四年と

ありますね。捲ってみましょう！凡例・・・つまり・・・編集方針ですね。

高橋 五項目ですね。読んでみましょう。

「一、 本書は初め、変調、奇想、滑稽の三者を蒐集したるものにして今之を概して滑稽俳句集となすは別に意あるにあらず、滑稽の義最も汎きを以てなり」

・・・随分物々しい文章ですね。

会長 紅緑は、変調、奇想、滑稽と三種類に分けてコレクション。それをまとめて「滑稽俳句集」としましたよ。「滑稽」の意味は範囲が広いからね・・・と書いている。

高橋 二項めは、「一、俳句春夏秋冬各々天文、時令、地理、動物、植物、人事（器用）、詠物の七門に分ち各類題となす」とありますね。

四季それぞれに天文、時令、地理、動物、植物、人事（器用）の項目に分類というわけですね。今私の手元にある俳句歳時記には、どれも春夏秋冬に加えて新年の季の区分が・・・一季の分け方は様々な様ですが・・・

会長 まず・・・お手持ちの歳時記で、春夏秋冬に加えて「新年」があるのは、都市部では新暦で正月の行事をいいますが農村では旧暦ですることが多かったからなんです。

農村だけで行われる新年の行事を冬の部に入れる

ことも出来ませんからね。紅緑の時代の歳時記では〈新年〉は独立していなかったということです。

「時令」は年中行事のことですね。
〈人事〉は大自然でないものですね。器用はすぐれた器物や人材のこと・・・
これは句を見てゆくうちにわかりますね。

高橋 三項めは謙遜して、「編者は薄学だから、漏脱もないとは言えないので、後日増補するかも分らないし、識者の方々に気がついたところがあれば、教えて欲しい」旨が書いてありますよ。

四項めは「一、蒐句材料の書籍は繁を省きて之を記さず、只だ古今の別をなすがために巻中人名表を添ふ」とありますね。

会長 引用した句集名を句ごとにつけるのは煩雑だから、巻末に句の作者一覧をつけました。
ということですね。
古今の別を・・・とありますが100年も経つと残念ながら時代がわからない人名もありますね。

高橋 最後の五項目めは、「この書を編するに方り最もお世話になった田中塵外君にここで謝辞を表す」旨が述べてありますよ。
ああ、やっと凡例（編集方針）が終わりましたね。（笑い）

会長 ものくさの蚊帳もたゝまず朝餉かな 田中塵外。
紅緑も「最もお世話になった」としているから田中塵外は自ら滑稽句をつくり、滑稽俳句集の編集

に多大の労を提供したものだと思われます。

高橋 次のページは・・・と。「自序」とあります。著者自ら書いた序文と言うことですよね？

わっ！面白そうですが、13ページもありますよ。

会長 この「自序」は『紅緑の滑稽俳句論』とでも言うべきものです。
実に素晴らしいです。
俳人が書いた滑稽俳句論は紅緑のあとにはありません。八木健ぐらいなものでしょう。

高橋 本当にその通りですね。
编者（紅緑）は以前から、風がはった句と滑稽の句とを見つけ次第書き留めて、折につけ開いてみては、独り面白がっていたが、積もり積もっていつしか二千句余りにも・・・これに淘汰に淘汰を加えて千五百句許にして一冊子分が出来上がった・・・と始めに書いてありますね。
ところで、「風がはった句」ってなんですか？

会長 「風」はかたち。
「はった」は顕著なということです。
風がはった句・・・「ちょっと変わっていて目に付いた句」ということですね。

高橋 つまり厳密には滑稽とは言えないかも知れないが

面白そうだ・・・。ぐらいですね

会長 そうですね。

高橋 あっ！二ページの初っ端に会長が先程、興味をお持ちになった当時の様子が・・・
ちょっと読んで見ますね！

「一言すべき必要があるのは滑稽文学が振はぬ今日に於いて俳句の滑稽趣味を幾分か世間に紹介し併せて元禄より今日に至る変遷を知るの便もあろうかと、・・・」

107年前も今日同様、滑稽文学、滑稽句は今ひとつ世間に浸透していなかったようですね。

会長 明治の佐藤紅緑は平成の八木健と同じことを言っていたわけです。紅緑がこの一冊に込めた思いが「じいん」と伝わってきます。
「なんとかせにゃならん」という思いですね。
私と同じ思いです。

高橋 百七年前に紅緑も会長と同じ思い、志を・・・面白いですね。

二ページ後半には、「古今の俳人の力量を知るには、滑稽の方面を見るのは最も捷徑である」とも書いてありますよ。

続けて三ページには、「滑稽の本相を看破せず之に伴ふ句法の修練を積まずして巧みを粧ふは善くないとの事である」・・・だから「一茶惟然の俳風は初心者たる者は決して模倣すべからず」と結論

付けてますね。

会長 俳人の力量を見るには「滑稽」のあるなしを見るのが近道ということ。滑稽の本質も知らず滑稽句について勉強もせず俳句のベテランのような顔をするな・・・ということですね。
一茶惟然の俳風は初心者たる者・・・これは大須賀乙二の云ったことを書いたのです。

高橋 会長！会長！
三ページの終わりのところ御覧下さい。
紅緑の滑稽句に対しての大切な警告が書いてありますよ。

【滑稽の句は一步を失すれば卑俗になり、汚穢になり、理窟になり厭味になる】・・・と。

この三月の第一回滑稽俳句大賞の選考評の中で、審査員のお一人復本一郎先生が「本質はあくまで『滑稽俳句大賞』であるということです。

単なる滑稽句なら他に面白い作品はいっぱいありますが、『滑稽』と同じく『俳句』であることを強く意識しながら選に当たりました。」と述べられたのは、正に、この紅緑の滑稽句に対する警告と本質は同じということですね。

ひと言に『滑稽』と言っても難しいものなのですね。

会長 【滑稽の句は一步を失すれば卑俗になり、汚穢になり、理窟になり厭味になる】

・・・也有は滑稽の第一人者とされているが、到底一茶に及ばないのは、その理窟だからで、大江丸は也有ほど厭味はないが「模倣」になかなかの

技があるだけ・・・だから一茶には及ばぬのだ。
としています。

高橋 また、四ページには「趣向と句調と相並んで能く滑稽に遊んだものは只た一茶あるのみである、併し明治の今日に於ては彼が如き単純なる句法は決して継続すべきものでないから、是等の一大變化を来すべき時機は眼前に迫つて居る。」と。

・・・明治三十四年当時、一茶の滑稽句は大きく認められていながら、この句法も一大變化を迎える時期に来ていると紅緑は書いていますね。

会長 紅緑は一茶を褒めながらも、なお進化を渴望していたわけですね。

高橋 続けて西山宗因の談林を非難して、

「談林は、語呂合懸け言葉を以て一種の理窟を言ひ表はす娯楽的の文字である許りで文學とは言はれぬ、可笑しいには違いないが人を撩ぐつて笑はせる様な浅薄なものであれば少しも詩的趣味はない思ひ寄せ擬人等は談林ならざる滑稽に多く見ゆるが個は滑稽と人事とは最も関係が深いからである、」

と手厳しいですね。

会長 談林の「理窟」を紅緑は嫌っていますね。
その続きを意識してみましょうか・・・
真の滑稽は理窟を離れるものなんだと、理窟は三分ぐらいにしておきなさい。理窟の厭味を押し潰す力のないものは滑稽の妙とは云えぬ。

奇想天来で笑うに笑えぬようなものがあるがあれは滑稽の部屋に土足で踏み込むようなものである。

「天地はことごとく滑稽」だと悟った坊さんがいるが滑稽の眼から見ればそれに違いないだろう。

高橋 続けて、七ページの終わりに、元禄、享保は未だ理屈を脱する事は出来ず、天明に至って稍稍一転化し、一茶に至て全く理屈を離れた事はわかると、次の具体例をあげて説明してますよ。

元禄	うどんやは人に喰れて暑哉	許六
享保	礼言ふて鯛は捨たる暑さ哉	也有
天明	我宿は下手の建たる暑さ哉	田福
文化	暑き日に面で手習した子哉	一茶

ふっふっふっ！どれも面白いですね！
ご説明下さいね。

会長 「暑さ」をテーマにして比較しています。
暑い日はうどん屋さんは繁盛するんですね。
食欲がないから軽いものにする。
うどん屋の親爺は多忙となり厨房で暑い・・・理窟ですね。

鯛を貰ったんだがこの暑さでは腐っているかもしれぬ。食中毒になるのを避けて鯛を捨てたんだが、礼だけは云った。許六よりは理窟は少ないけれど事情説明ですね。

三句め・・・こんなに暑いのは下手な大工が建てた家だからなんだ・・・
これも観念でしかない。

最後は一茶の句で「暑き日に面で手習した子哉」これはお習字の墨の手で汗の顔を拭いたので顔が墨で汚れたことを写生していますね。

元禄 享保 天明 文化と時代別に比較している
のも面白くわかりやすいですね。

高橋 成る程、よく分かります。
そうすることなのですね。

では、今日のハイライトとして最後に我等が会長の
『平成の暑さの滑稽句』もご披露させて戴きます
ね。

★ 暑いのが苦手な人に夏来たる
★ 懸想文？一見暑中見舞だが

会長 一句めは少し説明っぽいですね。
二句めはちょいだけ意外性が面白いのかな・・・

高橋 二句目、面白いですよ。
ふっふっふっ私好きです。
平成のニュータイプの滑稽句ですよ！
でも、疲れましたね・・・暑くなっちゃった！

会長 you might or more he'd today's hot fish

高橋 云ふまいと思へどけふの暑さかな・・・ですね
まだ自序の八ページの始めですが、
・・・紅緑の「滑稽俳句集」の読破は面白いけど大
変なことはじめちゃいましたね。

会長 温故知新。
大変じゃないですよ。面白いんだから。

(2009年 6月号)